

工 事 番 号							
設計年度	令和6年度		橋梁補修工事(市道堀亀津線亀津橋) 三原市 本郷町船木 仕 様 書				
施工月日	令和 年 月 日						
施工方法	請 負						
工事期間							
工 事 概 要				起 工 理 由			
施工内容 橋梁補修 N=1橋 上部工修復工 下部工修復工 仮設工 1構造物 V=0.1m3 1 式							

特記仕様書

第1章 総則

第1節 適用

- 1 本特記仕様書は、三原市本郷町船木、橋梁補修工事(市道堀亀津線亀津橋)に適用する。
- 2 本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。

・ **土木工事共通仕様書（令和6年8月）広島版（適用区分「広島」及び「広島県」）**

※ 土木工事共通仕様書は「広島県の調達情報」に掲載している。

<https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/>

・ その他関連規格類

第2節 週休2日工事等

本工事は、週休2日工事の対象外とする。

第3節 熱中症対策に資する現場管理費の補正

- 1 本工事は、熱中症対策に資する現場管理費の補正をする工事とする。
- 2 受注者は、補正を希望する場合、監督員と協議すること。
- 3 工事の実施にあたっては「熱中症対策に資する現場管理費の補正の運用について」に基づき、行うこと。

第4節 法令及び条例等の遵守

- 1 次の内容について、施工計画書の「その他」項目に記載すること。
 - (1) 工事の実施にあたり、発注者から明示された、又は、受注者が行うべき「法令及び条例等に基づく各種手続き及び許可承諾条件」
 - (2) 上記(1)の内容について「不測の事態等が生じた場合の対応方法」
 - (3) 上記(1)、(2)の内容について「現場作業に従事する者に対する周知の方法」
- 2 「施工方法」等の関連する項目に、許可承諾条件等を適切に反映すること。
- 3 「法令及び条例等に基づく各種手続き及び許可承諾条件」等の変更が生じた場合は、施工計画書の内容に重要な変更が生じたものとし、変更施工計画書を提出すること。

第5節 建設副産物

本工事における建設副産物については、土木工事共通仕様書1-1-2-11 建設副産物のとおり取り扱うこととする。なお、「再生資源利用計画」、「再生資源利用促進計画」及び「実施書の提出」については、次のとおりとする。

- 1 再生資源利用計画及び再生資源促進計画

受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。また、受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令に基づき、再生資源利用促進計画（5の確認結果票を含む）を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。なお、その内容に変更が生じたときは、速やかに利用計画及び促進計画を変更し、監督職員に報告しなければならない。

2 計画の掲示及び公表

受注者は、1の再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

現場掲示様式については、次のURLを参考に作成すること。

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credas1top.htm

3 実施書の提出

受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を監督職員に提出しなければならない。なお、受注者は、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書の作成後、工事完成から5年間保存しなければならない。

4 工事現場の管理体制

受注者は、再生利用の促進を行うため、工事現場における建設副産物責任者を置くことにより、管理体制を整備するとともに、当該責任者に対し、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画の内容について現場担当者の教育を十分行うこと及び、関係する他の施工者及び資材納入業者もこれを周知徹底することを指導するものとする。

第2章 施工条件

第1節 安全対策

1 交通誘導警備員・警戒船・保安要員

作業期間、交通誘導警備員を2（人／日）配置すること。

第2節 施工

1 下部工の補修は、橋梁点検車による施工とする。

第3章 工事保険等

1 工事保険等

受注者は、本工事において第三者に与えた損害を補填する保険又はその他必要とする建設工事に関連する保険等に加入しなければならない。また、加入した保険等については、保険証券の写し（保険以外の場合はそれに代わるもの）を監督員に提出すること。なお、加入に必要な保険料等は、設計で現場管理費に見込んでいる。

2 法定外の労災保険 の付保

- (1) 受注者は、本工事に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するための保険契約（以下「法定外の労災保険」という。）を付保しなければならない。
- (2) 受注者は、建設工事請負契約約款第54条（火災保険等）に基づき、法定外の労災保険の契約締結したときは、その証券又なこれに代わるものを速やかに監督職員に提示しなければならない。
- (3) 法定外の労災保険は、政府の労働災害補償保険とは別に上乗せ給付等を行うことを目的とするものであり、（公財）建設業福祉共済団、（一社）建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、（一社）全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、労働者災害補償保険法に基づいて契約を締結しているものとする。

第4章 その他

本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項又は、その内容に疑義が生じた場合は、監督職員の指示を受けること。

数 量 総 括 表

— 橋梁補修工事（市道堀亀津線亀津橋） —

工事数量総括表

頁0 -0001

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
本工事費					
橋梁保全工事		式		1	レベル1
工場製作工		式		1	レベル2
鋼製型枠製作工		式		1	レベル3
製作加工	【SS400、亜鉛メッキ加工】	式		1	レベル4
橋梁補修工		式		1	レベル2
上部工修復工		式		1	レベル3
左官工法	【ポリマーセメント】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理有】	構造物		1	レベル4
下部工修復工		式		1	レベル3
コンクリートはつり		m3		0.1	レベル4
無収縮モルタル打設		m3		0.1	レベル4
差筋アンカー	D19*240、亜鉛メッキ加工	本		4	レベル4
コンクリートアンカー	M16*120	本		8	レベル4
型枠	【鋼製】	式		1	レベル4
高所作業車		台		1	レベル4
構造物撤去工		式		1	レベル2
運搬処理工		式		1	レベル3
殻運搬	【コン殻無筋】	m3		0.1	レベル4

工事数量総括表

頁0 -0002

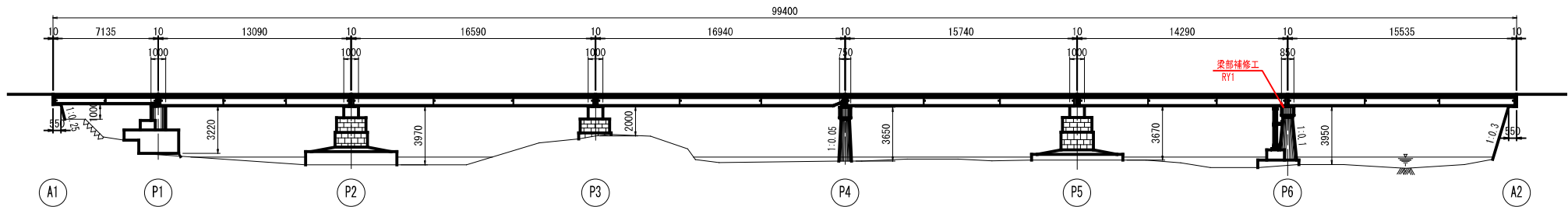
費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
殻処分	【コン殻無筋】	m3		0.1	レベル4
仮設工		式		1	レベル2
交通管理工		式		1	レベル3
交通誘導警備員		人		2	レベル4
※※直接工事費※※					
共通仮設費率分					
※※共通仮設費計※※					
※※純工事費※※					
現場管理費					
※※工事原価※※					
一般管理費率分					
一般管理費計					
※※工事価格※※					
※※消費税相当額※※					
※※工事費計※※					

工事名	橋梁補修工事(市道堀亀津線 亀津橋)		
図面名	補修一般図		
路線名	市道堀亀津線 亀津橋		
縮尺	図示	図面番号	1 / 3
工事箇所	三原市 本郷町 船木		
発注者	三原市		

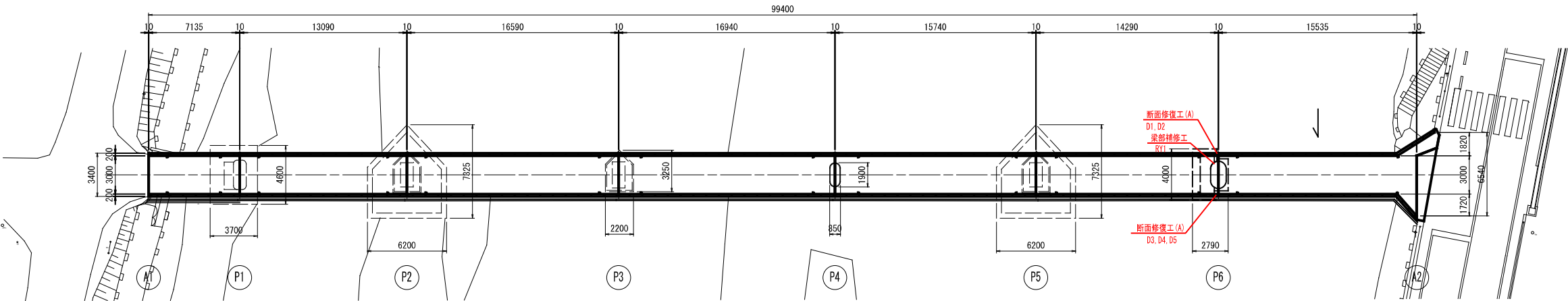
補修一般図

S=1:200

側面図

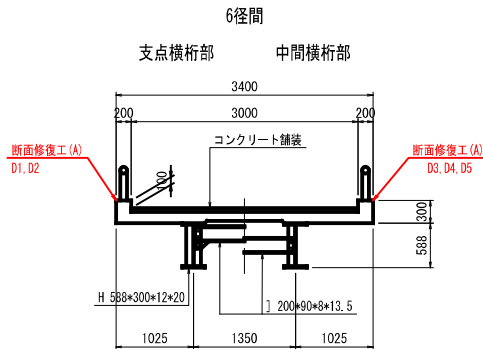


平面図



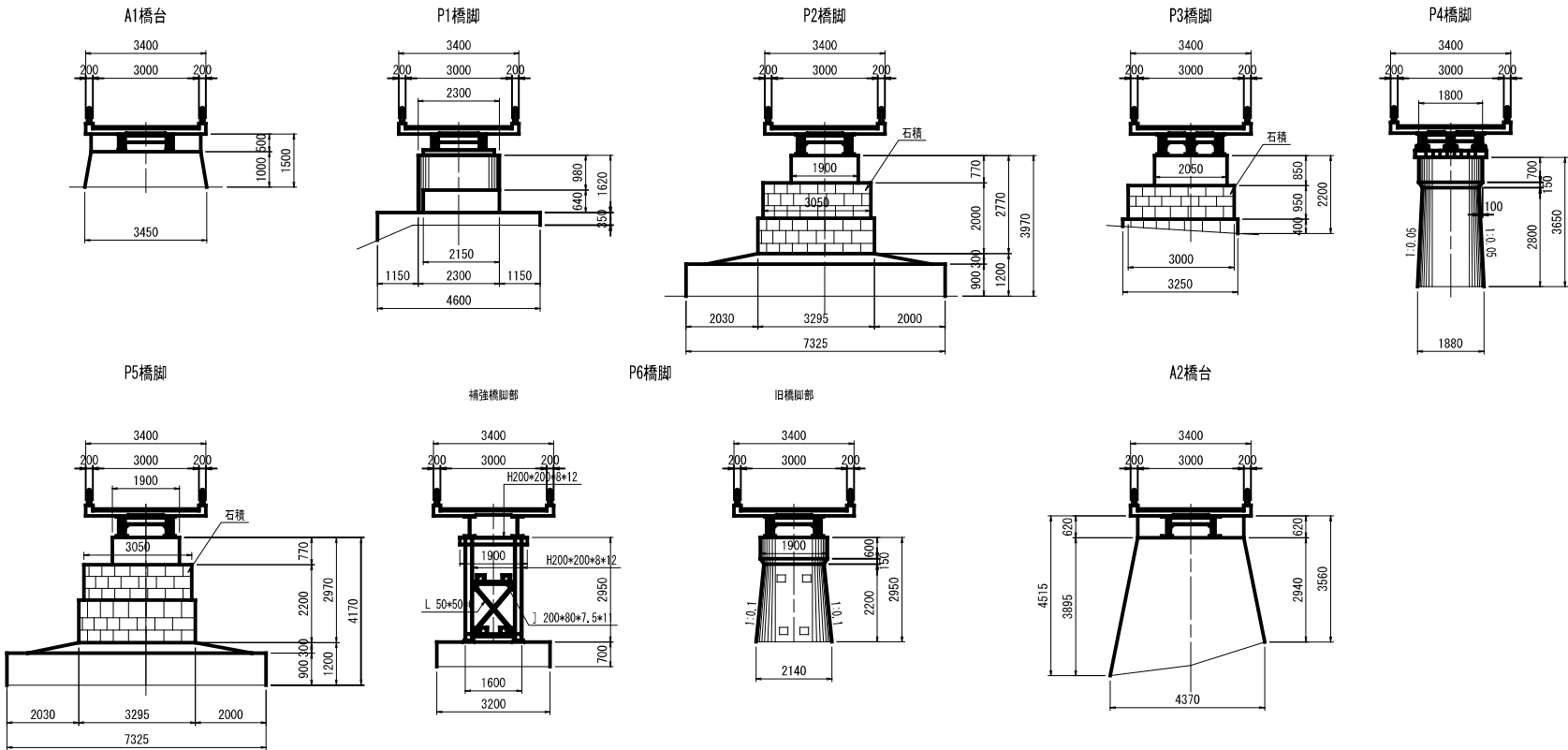
標準横断面図

S=1:50



下部工正面図

S=1:100



設計条件	単位
橋格	T-10 (農道橋)
橋梁形式	上部工
	鋼単純1桁 (7連)
	橋台
	逆T式橋台
	下部工
	橋脚
	壁式橋脚
	基礎
	直接基礎
橋長	m 99.40
桁長	m 7.14+13.09+16.59+16.95+15.74+14.29+15.54
支間長	m 7.14+13.09+16.59+16.95+15.74+14.29+15.54
有効幅員	m 3.00
斜角	度 90°
設計水平震度	kh 不明
使用材料	上部工 SS50、SS41、 $\sigma_{ck}=21N/mm^2$ (※)
設計基準強度	下部工 $\sigma_{ck}=18, 21N/mm^2$ (※)
竣工年 / 〈適用示方書〉	竣工年 : 1966年 / 〈不明〉

※使用材料、強度は推定。

橋梁補修一覧表			
工 種	内 容		対象部材
断面修復工 (A)	支承下部の損傷箇所を、鉄筋防錆処理後、ポリマー系修復材で断面修復を行う。 また、支柱基部の地覆欠損部 (1, 2, 6, 7径間) も同様の断面修復を行う。		橋脚、地覆
梁部補修工	P6橋脚支承直下の欠損部に、鋼製型枠を取り付けコンクリート打設する。		P6橋脚梁

本図は現地簡易計測結果をもとに作成したものである。
施工前に本図をもとに詳細計測を行い、補修材料の仕様・数量等を確定し施工すること。

工事名	橋梁補修工事(市道堀亀津線 亀津橋)		
図面名	上部工補修図		
路 線 名	市道堀亀津線 亀津橋		
縮 尺	S=1:30	図面番号	2 / 3
工事箇所	三原市 本郷町 船木		
発 注 者	三 原 市		

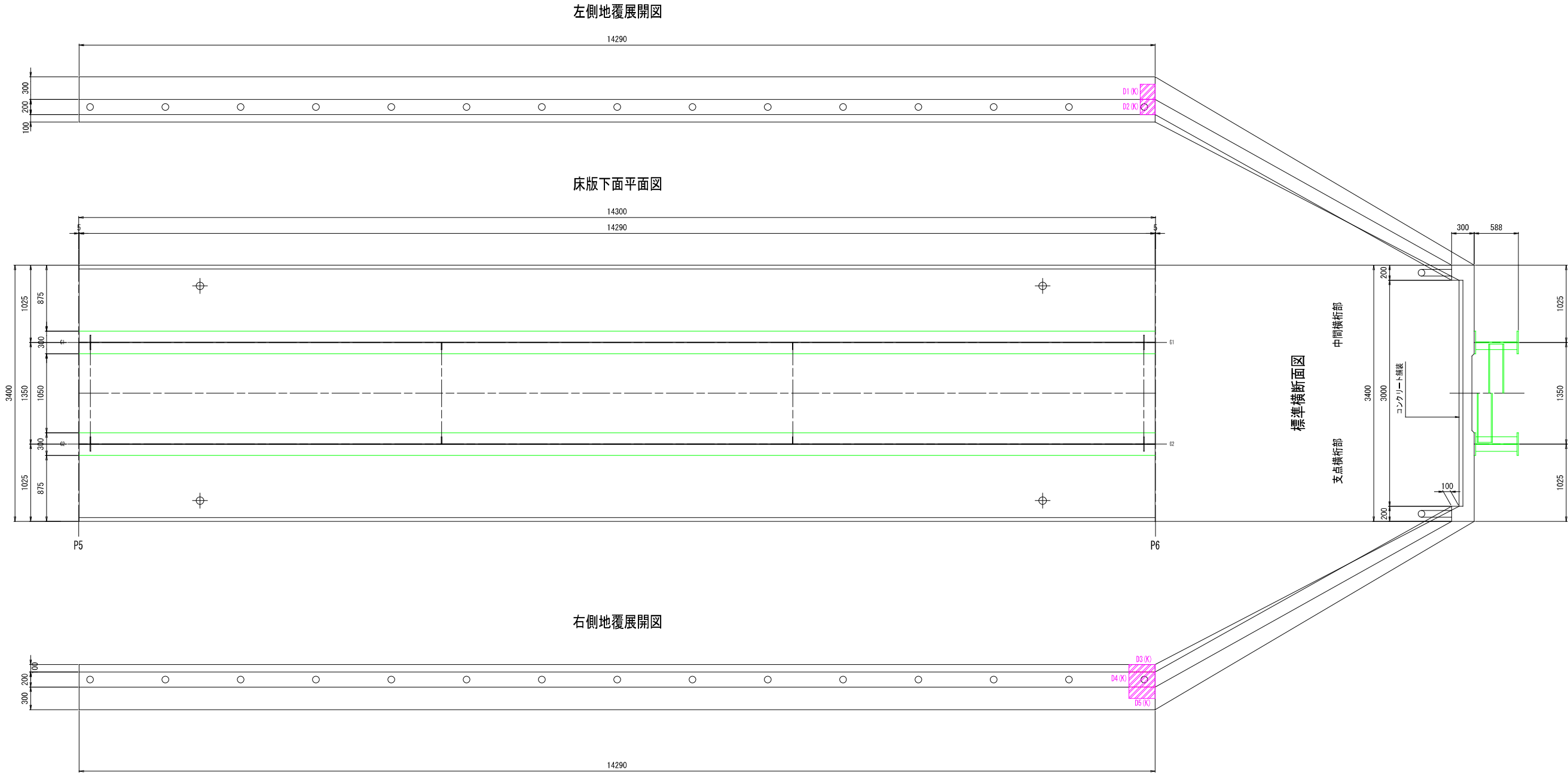
上部工補修図

S=1:30

地覆補修（6径間）

補修工法凡例		
損 傷	記 号	補修対策工法
変形・欠損	 DK (K)	断面修復工 (A)

注記) 施工に当っては現地計測の上 施工数量を決定の事



断面修復工 (A) 数量表 (上部工) 深さ0.05m

測点	寸法	面積 (m2)
D1 (K)	0.20×0.25	0.05
D2 (K)	0.20×0.20	0.04
D3 (K)	0.35×0.05	0.02
D4 (K)	0.35×0.20	0.07
D5 (K)	0.35×0.15	0.05
	合 計	0.23

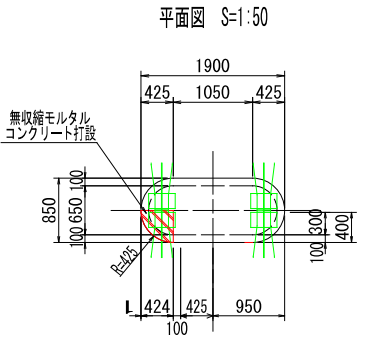
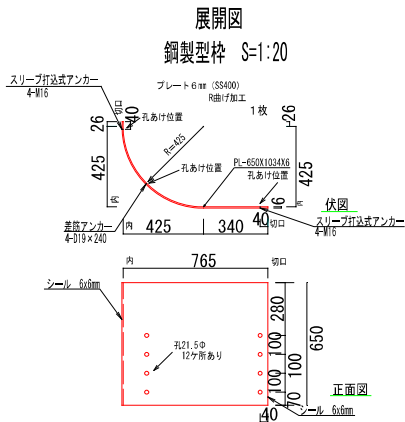
工事名	橋梁補修工事(市道堀亀津線 亀津橋)		
図面名	下部工補修図		
路線名	市道堀亀津線 亀津橋		
縮尺	図示	図面番号	3 / 3
工事箇所	三原市 本郷町 船木		
発注者	三原市		

下部工補修図

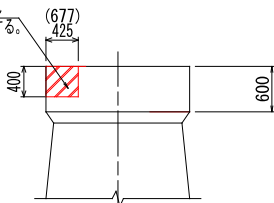
S=1:50

下部工（P6橋脚）

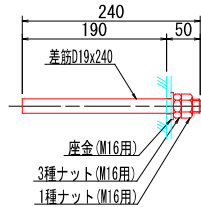
梁部補修工詳細図



正面図 S=1:50
注記：下の図の梁、柱の円形部は正面投影形状である



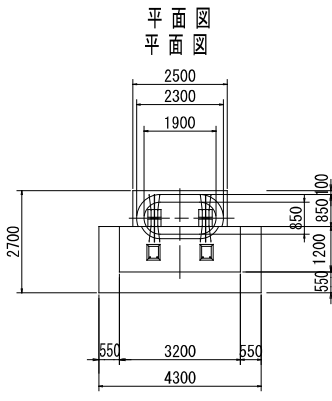
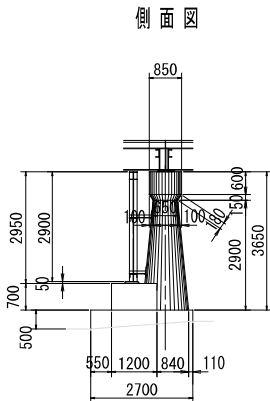
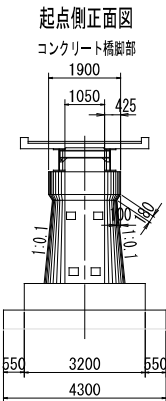
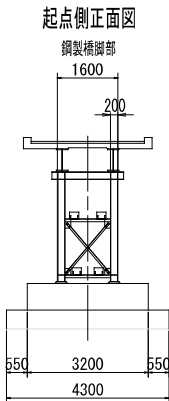
差筋アンカー S=1:5



() 内数値は差筋アンカー用を示す。

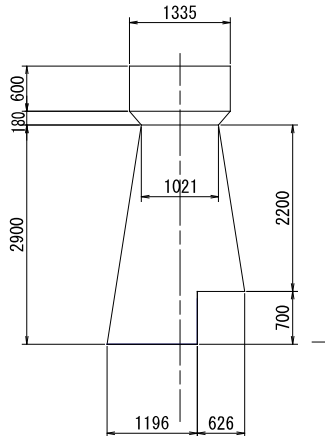
P6橋脚構造図

S=1:100



左側側面図

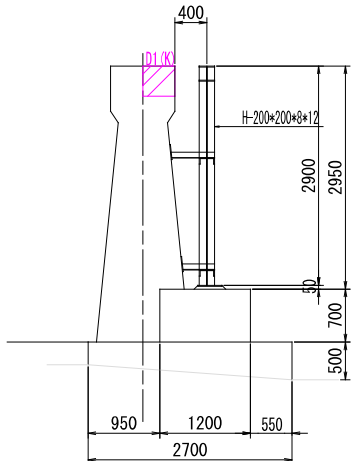
コンクリート橋脚展開図



注記：上の図の梁、柱の円形部は展開形状である

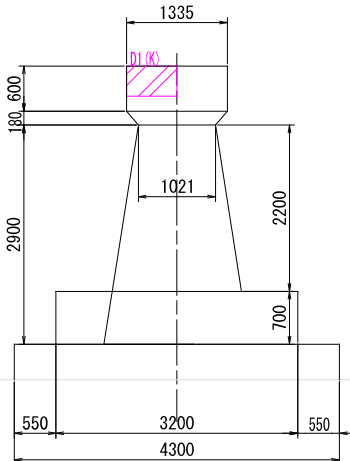
上流側側面図

鋼製橋脚部



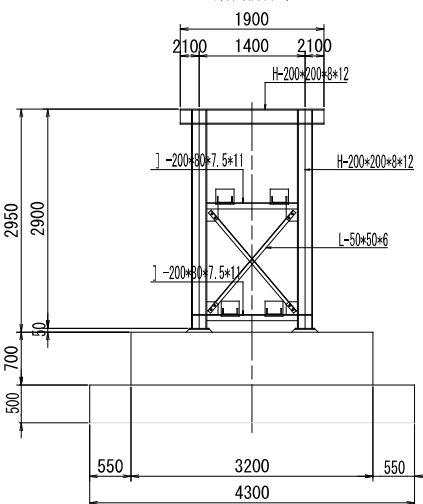
右側側面図

コンクリート橋脚展開図



起点側正面図

鋼製橋脚部



注記：上の図の梁、柱の円形部は展開形状である

P6橋脚

数量表(下部工)平均深さ0.2m

測点	寸法	面積 (m ²)
D1 (K)	0.40×0.67	0.27
合 計		0.27

補修工法凡例

損 傷	記 号	補修対策工法
変形・欠損	 DX (K)	コンクリート打設 σ _{ck} =24N/mm ² (24-0-25) 鋼製型枠(残置)

注記) 施工に当っては現地計測の上 施工数量を決定の事

参 考 資 料

－橋梁補修工事(市道堀亀津線亀津橋)－

総括情報表

頁0 -0001

変更回数 適用単価地区 単価適用日	0 65 三原市(本郷) 00-06.09.01(0)		《凡例》 Co …コンクリート As …アスファルト DT …ダンプトラック BH …バックホウ CC …クローラクレーン TC …トラッククレーン RTC…ラフテレーンクレーン
諸経費体系	1 公共(一般)		
	当世代	前世代	
工種 施工地域・工事場所区分 復興補正区分 週休補正区分 現場事務所等の貸与区分 I C T補正区分 冬期補正係数 緊急工事区分 前払金支出割合区分 契約保証区分	41 橋梁保全工事 04 一般交通影響有り(2) 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0 % 00 補正無し 03 補正しない		
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

本工事費 内訳表

頁0 -0002

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
工場製作工	1	式			Y1G0301 レベル2
鋼製型枠製作工	1	式			Y1G030103 レベル3
製作加工 【SS400、亜鉛メッキ加工】	1	式			Y1G03010301 レベル4
【工場製作に含まれる材料費等】 (但し、工場塗装に係る材料費は除く) 工場管理費[対象外]、一般管理費等[対象]	1	式			#0045
鋼製型枠製作費	1	式			F0000000001 00
橋梁補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
上部工修復工	1	式			Y1G032405 レベル3

本工事費 内訳表

頁0 -0003

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
左官工法 【ポリマーセメント】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理有】	1	構造物			Y1G03240501レベル4
断面修復工(A) 左官工法	1	構造物			V0001 00 単第0 -0001 表
下部工修復工	1	式			Y1G032405 レベル3
コンクリートはつり	0.1	m3			Y4999 レベル4
コンクリートはつり	0.1	m3			V0002 00 単第0 -0002 表
無収縮モルタル打設	0.1	m3			Y4999 レベル4
無収縮モルタル打設	0.1	m3			V0003 00 単第0 -0003 表
差筋アンカー D19*240、亜鉛メッキ加工	4	本			Y4999 レベル4
差筋アンカー D19*240、亜鉛メッキ加工	4	本			F0000000004 00

本工事費 内訳表

頁0 -0004

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
コンクリートアンカー M16*120	8	本			Y4999 レベル4
Co削孔(電動ハンマドリル)	8	孔			SPK24040347 00 単第0 -0004 表
コンクリートアンカー M16*120	8	本			F0000000005 00
型枠 【鋼製】	0.5	m2			Y1G03130405レベル4
型枠 撤去しない埋設型枠 床版部	0.5	m2			SPK24040155 00 単第0 -0005 表
高所作業車	1	台			Y4999 レベル4
<賃>橋梁点検車 作業高約6m,積載質量200kg	1	日			KH000416 00
構造物撤去工	1	式			Y1G0327 レベル2
運搬処理工	1	式			Y1G032716 レベル3

本工事費 内訳表

頁0 -0005

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
殻運搬 【コン殻無筋】	0.1	m3			Y1G03271601レベル4
殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間無し 運搬距離8.0km以下(5.7km超)	0.1	m3			SPK24040151 00 単第0 -0006 表
殻処分 【コン殻無筋】	0.1	m3			Y1G03271602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
コンクリート殻処分費 無筋	0.2	t			F0000000006 00
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2
交通管理工	1	式			Y1G032821 レベル3
交通誘導警備員	2	人			Y1G03282101レベル4
交通誘導警備員B	2	人			R0369 00

本工事費 内訳表

頁0 -0006

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
※※直接工事費※※ #0020計=支給品等(材料),無償貸付					
共通仮設費率分					Z0019
計算情報…… 対象額……… 率……………					
※※共通仮設費計※※					
※※純工事費※※					
現場管理費 計算情報…… 対象額……… 率……………					
※※工事原価※※					
一般管理費率分 計算情報…… 対象額……… 率……………					前払補正率…
一般管理費計					

本工事費 内訳表

頁0 -0007

[illegible]

施工単価表

頁0 -0008

断面修復工(A)

V0001

單第0 -0001 表

1

構造物 当り

左官工法

[illegible]

施工単価表

頁0 -0009

コンクリートはつり

V0002

單第0 -0002 表

0.48

m3

当り

[illegible]

施工単価表

頁0 -0010

無収縮モルタル打設

V0003

單第0 -0003 表

0.1

m3

当り

[illegible]

施工単価表

Co削孔(電動ハンマドリル)

SPK24040347

単第0 -0004 表

1

孔 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比: 100.00% 材料構成比: 0.00% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 760.89000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
土木一般世話役	45.21%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
特殊作業員	41.75%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 -(全ての費用)					

施工単価表

型枠
撤去しない埋設型枠
機械構成比：0.00%

SPK24040155

単第0 -0005 表

床版部
労務構成比：100.00%

材料構成比：0.00%

市場単価構成比：0.00%

1
標準単価：1,693.40000

m2 当り
1,693.40000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
特殊作業員	47.32%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	28.22%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	17.06%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=3 C=1 撤去しない埋設型枠 -(全ての費用)			B=6 床版部		

施工単価表

頁0 -0013

殻運搬
Co(無筋)構造物とりこわし
機械構成比: 41.69% 労務構成比: 43.88% 材料構成比: 14.43% 市場単価構成比: 0.00%
SPK24040151
DID区間無し 運搬距離8.0km以下(5.7km超)
1
標準単価: 1,480.70000
m3 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	41.69%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
運転手(一般)	43.88%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	14.43%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 Co(無筋)構造物とりこわし C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=34 運搬距離8.0km以下(5.7km超)		

【亀津橋】
数量計算書

数量計算書

上下部工補修数量

数量総括表

工 種	規 格		単位	合 計	備考
断面修復工 (欠損部)			構造物	1	
	下地処理	はつり	m ²	0.23	
	断面修復工 (A)	鉄筋防錆工	m ²	0.46	含浸材 (亜硝酸リチウム), 防錆材
		ポリマーセメントモルタル	m ³	0.013	
補修工 (下部工)					
	下地処理	はつり	m ²	0.1	
	無収縮モルタル		m ³	0.1	
	鋼製型枠	1-PL 650x6x1031 (SS400)	m ²	0.5	
		製作重量 (SS400) めっき	kg	24.0	
	差筋アンカー	D19x240 (SD345) めっきM16ねじ切、SW、ナット	組	4	
	コンクリートアンカー工				
	アンカー	M16×120 めっき処理	本	8	スリーブ打込式
	穿孔	φ27x58	本	8	
		シール 6×6mm	m	3	
構造物撤去工	コンクリート殻	立積	m ³	0.08	0.07 + 0.013
		重量換算	t	0.19	0.08 * 2.35

(1) 断面修復工 (A) (欠損部) 数量計算書

番号	部位	寸法 (m × m)	補修面積 (m ²)	補修深さ (m)	塗布面積 (m ²)	補修体積 (m ³)	備考
	地覆補修（6径間）						
D1 (K)		0.20 × 0.25	0.050	0.050	0.095	0.003	
D2 (K)		0.20 × 0.20	0.040	0.050	0.080	0.002	
D3 (K)		0.35 × 0.05	0.018	0.050	0.058	0.001	
D4 (K)		0.35 × 0.20	0.070	0.050	0.125	0.004	
D5 (K)		0.35 × 0.15	0.053	0.050	0.103	0.003	
	計		0.231		0.461	0.013	
	計		0.231 m2		0.461 m2	0.013 m3	

(2) 梁部補修工

補修図より

1) 無収縮モルタル

$$A = (0.68 + \quad) \times 0.40 = 0.27 \text{ m}^2$$

$$V = 1/2 \times (0.40 + 0.10) \times 0.27 = 0.07 \text{ m}^3$$

2) 鋼製型枠 (t=6mm、めっき処理)

鋼製型枠は残置する。

$$A = 0.765 \times 0.65 = 0.50 \text{ m}^2$$

$$w = 0.50 \times 0.006 \times 1.03 \times 7,850 = 24 \text{ kg}$$

3) アンカーボルト (めっき処理)

$$M16 \times 100 \quad N = 4 \times 2 = 8 \text{ 個}$$

($\phi 22.5 \times 58 \text{mm}$ 穿孔)

4) 差筋アンカー (めっき処理)

$\phi 19 \times 240$ (M16ねじ切)

座金、1種3種ナット (M16用)

$$N = 4 \times 1 = 4 \text{ 組}$$

5) シール

6mm $\times$ 6mm

$$L = 0.65 \times 2.000 \times 0.95 \times 2 = 3.2 \text{ m}$$

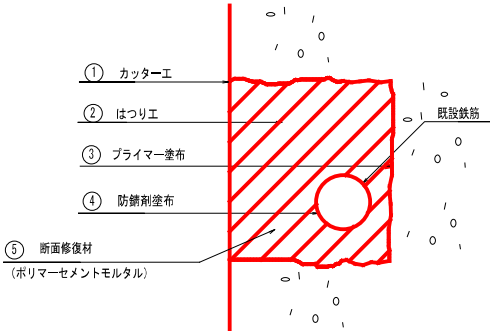
参 考 図

— 橋梁補修工事（市道堀亀津線亀津橋） —

工事名	橋梁補修工事(市道堀亀津線 亀津橋)		
図面名	補修詳細図（参考図）		
路 線 名	市道堀亀津線 亀津橋		
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 1
工事箇所	三原市 本郷町 船木		
発 注 者	三 原 市		

補修詳細図

断面修復工 (A)：鉄筋コンクリート構造
(ポリマーセメントモルタル)



※ 施工手順

- 1 カッター切断
- ↓
- 2 コンクリートはつり
- ↓
- 3 プライマー塗布
- ↓
- 4 防錆剤塗布
- ↓
- 5 ポリマーセメントモルタル埋戻し

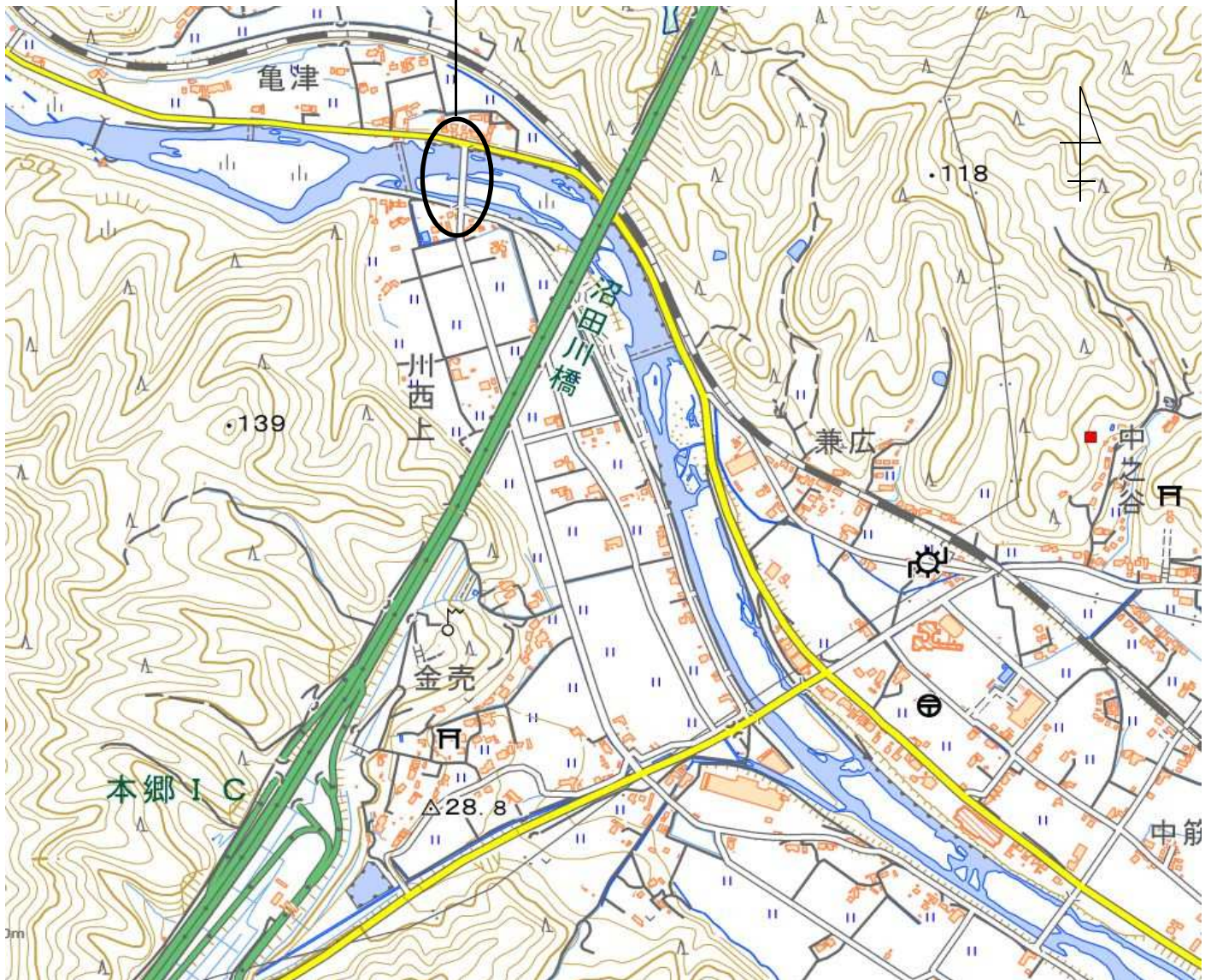
※ 注

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
2. 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲に深さ1cm程度コンクリートカッターにより切断目地を入れ、入念に施工する。
施工厚は補修図記載数値を標準とする。
3. 使用材料
断面修復材
ポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法 設計施工指針(案)〔工法別マニュアル編〕平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。

力 学 的 性 能	
要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同等な強度特性を有すること (圧縮強度：30N/mm2以上)
付着強度	躯体コンクリートと一体となること (1.5N/mm2以上 建研式)

位置図

橋梁補修工事(市道堀亀津線亀津橋)



国土地理院地図引用